

# 主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

## メッセージ 1

### イエス・キリストは神の御子として明示される

聖書：ヨハネ1:18, 3:16, 18, 14:9-10, 20:31, ローマ1:3-4, 8:3, 29.

#### I. わたしたちは神の御子を知る必要があります——ヨハネ3:16, 20:31：

A. 「神の御子」は神の表現を暗示します。御子は御父を表現したので、御子は御父の表現です——ヨハネ1:18, 14:9-10。

B. 神格において、御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちです——ヘブル1:3前半：

1. 栄光は外側の表現であり、本質は内側の要素です：

a. 神の外側の表現としての栄光に関して言えば、御子は神の栄光の輝きです——3節前半。

b. 神の内側の要素としての本質に関して言えば、御子は神の本質の明確なかたちです——3節前半。

2. 御子が神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであることが意味するのは、御子が、わたしたちに届き、来て、わたしたちの中へとご自身を分与する神であるということです——Ⅱコリント13:14。

#### II. 「わたしはあなたの身から出るあなたの子孫をあなたの後に起こし……わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる……」——サムエル下7:12前半, 14前半：

A. サムエル記下第7章12節前半の「あなたの子孫」と14節前半の「わたしの子」が暗示しているのは、ダビデの子孫が神の御子になること、すなわち、人の子孫が神聖な御子になるということです——ローマ1:3-4。

B. ダビデの子孫が神の御子となることに関するこの御言葉は、新約において継続されており、力強く発展しています——マタイ22:41-45, 啓22:16。

#### III. 神の御子に関しては、二つの面があります。神のひとり子の面と神の長子の面です——ヨハネ3:16, ローマ8:3, 29：

A. 聖書は、神格の第二を神のひとり子と呼んでいます——ヨハネ1:14, 18, 3:16, 18, Iヨハネ4:9：

1. 彼が神のひとり子であることは、彼の神性と神格における彼の身分を指しています——ヨハネ1:18。

2. 彼はひとり子として、御父とその霊と同じ本質からなっています。彼は神の完全な本質とその唯一の属性すべてを所有しています——コロサイ2:9。

3. 彼がひとり子であることは、彼が存在しなかった時期があり、また彼が

過去の永遠におけるある時点で神のひとり子となったということを意味するのではありません：

- a. 彼は永遠に神です——ヘブル1:12. 7:3。
- b. 彼が生まれることは、出来事ではなく、御父との永遠の関係を指しています。御父は御子の永遠の源であり、御子は御父の永遠の表現です——ヘブル1:3前半。

B. キリストは復活を通して、神の長子の面において神の御子となりました——ヘブル1:5-6. ローマ1:3-4. 使徒13:33：

- 1. 彼が神の長子となることは、主の復活を指しています。復活の時、彼の栄光が現されて、彼は神性と人性において神の御子となりました——ローマ1:3-4。
- 2. 神性において、彼はすでに神のひとり子でしたが、復活を通して彼の人性はまた神の御子にもなり、わたしたちが神の多くの子たちとなる道が開かれました——ヨハネ1:18. ローマ8:3. 1:3-4。
- 3. 彼の人性は、復活を通して「息子化され」、永遠の水準に引き上げられました。
- 4. キリストは復活を通して神の長子となり、命を分与する者となって、彼の中に具体化された命を増殖させました——8:29, 10, 6, 11。

C. キリストは、一度目の来臨において神のひとり子でした。彼は、二度目の来臨において長子です——ヘブル1:6-8。

D. キリストがひとり子であることは、わたしたちが贖われて永遠の命を持つためです。キリストが死と復活を通して長子となることは、わたしたちが神の子たちとなり、相続人として神であるすべての豊富を受け継ぎ、すなわち、受け、あずかり、三一の神のすべての豊富を享受するためです——ヨハネ3:14-16. ローマ1:3-4. 8:14-17. ガラテヤ3:26, 29。

**IV. わたしたちは復活におけるキリストを知る必要があります。彼は、人の性質を伴い、力の中で神の御子と明示された方です——ローマ1:3-4：**

A. キリストは、肉体と成って復活する前、神の御子、すなわち、ひとり子でした——ヨハネ1:18. 3:16。

B. キリストは、肉体と成る前にすでに神の御子でしたが、肉体と成ることによって彼は神性とは何の関係もない人の性質を着たため、なおも復活から神の御子と明示される必要がありました——ヨハネ1:1, 14. ローマ8:3：

- 1. 神の御子が肉体と成った後、彼の神聖な性質は肉体によって隠されていました。
- 2. キリストはすでに彼の神性において神の御子でしたが、マリアから生まれたイエスの人の性質を伴ったその部分は、神の御子ではありませんでした——ルカ1:31-32, 35。
- 3. 復活によって、キリストは彼の人の性質、彼の人性を聖別し、引き上げ、彼は復活から、この、人の性質を持つ神の御子と明示されたのです。この意味で、彼は

復活において神の御子として生まれました——ローマ1:3-4. 使徒13:33. ヘブル1:5。

4. この神の御子と明示されることは、「力の中で」、すなわち、キリストの復活の力の中ででした。その実際はその霊です——ローマ1:4. ペリピ3:10. エペソ1:19-20。
- C. 復活において明示されることを通して、肉体と成る前からすでに神の御子であったキリストは、新しい方法で神の御子となりました——ローマ1:4:
  1. 肉体と成る前、彼はただ神性だけを持つ神の御子でした。彼の復活を通して、彼は神性と人性の両方を持つ神の御子と明示されました——4節。
  2. もしキリストが人性を着られなかったなら、彼は神の御子と明示される必要はありませんでした。なぜなら、彼の神性において、彼はまさに永遠から、すでに神の御子であるからです——ヨハネ1:18. 17:5。
  3. 彼は、肉体と成ることを通して人性を着たので、復活において人性を持つ神の御子と明示されました——1:14. ローマ8:3. 1:3-4. ヘブル2:14:
    - a. 明示された神の御子として、キリストは依然として二つの性質、神性と人性を持っています。彼が今持っている人性は天然の人性ではなく、復活の中で引き上げられた人性です——ローマ1:4。
    - b. キリストの持つ人の性質さえ神の御子と明示されました。なぜなら、彼は神性と人性の両方を持つ神の御子と明示されたからです。
- D. キリストが人性をもって神の御子として明示されることは、「聖別の霊によ」ってでした——ローマ1:4:
  1. 主イエスが死人の中から復活した時、彼は内側の聖別の霊によれば、復活によって、力の中で神の御子と明示されました——4節。
  2. 今や彼は、以前にもましてすばらしい方法で神の御子です。なぜなら、彼は今や、神聖な性質と人の性質（復活し、造り変えられ、引き上げられ、栄光化され、明示された）を持っているからです——6:4. ルカ24:26. ヨハネ17:5. 使徒3:13。